

【香川県東かがわ市】

平成18年に「東かがわ市学校施設整備構想」を策定し、学校再編計画をもとに小学校の統合を行いました。令和4年4月に東かがわ市立大内大川小中学校が開校し、市内の小中学校は全て小中一貫校となりました。小中一貫校導入の背景には校舎の老朽化や児童生徒数の減少等が要因にあります。

本市においても、児童生徒数の減少が続いており、適正配置は行わなければならない喫緊の課題であります。



香川県東かがわ市
庁舎玄関

さまざまな課題もあると思いますが、小中一貫校の導入も選択肢の一つとして協議を進めていただきたいと思います。



香川県東かがわ市
研修の様子

【産業経済委員会】

令和6年9月30日から10月1日までの2日間、熊本県の天草市と合志市において行政調査を行いました。

【熊本県天草市】

天草市では、有害鳥獣処理施設について調査を行いました。捕獲隊員の高齢化や埋設場所がない等の問題があり、今後の捕獲隊員の確保、捕獲頭数の増加、不完全な埋設処理による自然環境への影響も懸念されたことから、イノシシの捕獲を推進するため、埋設処理に代わる処理方法について検討したとのことです。

天草市には、ジビエ加工施設が3施設あることから、減容化施設に絞って検討し、令和2年5月に「天草市有害鳥獣資源化処理施設運営検討委員会」が発足し、施設建設を具体

的に進めていくための、要領を策定し役割を明確化して事業を進められました。

事業実施に際しては、施設の設置場所、運営方法、機械の選定などが重要ですが、設置場所については、止め刺しから施設搬入まで1時間程度で搬入できる場所で、周囲に民家がなく、J Aの遊休地や市有地から候補地を検討して決定したとのこと。また、運営方法は業務委託とし、熊本県猟友会天草支部新和分会で構成された「あまくさ地域創造」が、3人体制を基本にイノシシの受け入れや機械運転等を行っているとのことでした。

機械の選定に関しては、先行事例として情報収集を行った佐賀県武雄市が導入している機種に決定し、選定理由は、「①イノシシを丸ごと機械に投入し処理するため、手間がかからない②無臭乾燥機による処理で、おいや排水がない③処理時間が、5〜6時間の短時間である④自動運転で、運転中の労力がかからない⑤ランニングコストがあまりかからない」などが挙げられています。

周辺への環境配慮として、機械は建屋内に設置され、処理能力は1日当たり14頭（450kg）程度で、捕獲頭数の増減に対応するため、約10日分の4500kgが保管できる冷凍

コンテナが併設されています。

機械運転後の成果物は、一旦保管後、一定量に達すると機械メーカーが引き取っている。計画では肥料原料として長崎の肥料会社へ出荷し、そこで特殊肥料の製造を行う予定で、現在は特殊肥料の登録に向けて手続きを進めている状況とのことでした。

本市においても、イノシシによる農業被害は依然として深刻な状況であり、捕獲を推進するためには、埋設処理に代わる処理方法の検討が急務です。天草市の取り組みは大いに参考になるものであり、早急に具体的検討に入るべきものと考えます。



熊本県天草市
研修の様子

【熊本県合志市】

合志市では空き家対策について調査を行いました。「稼げる市」を目指し、関係機関と連携し、民間の投資や雇用が生まれる環境を創出するために、「株式会社こうし未来研究所（以下、未来研究所と略す。）」